

令和7年度
東京都花粉症対策検討委員会
(第2回)
議事録

令和8年1月22日
東京都健康安全研究センター

(午後1時33分 開会)

○長島健康危機管理情報課長 お時間となりましたので、ただいまから、令和7年度第2回東京都花粉症対策検討委員会を開催いたします。

委員の皆様、本日はお忙しいところ、本委員会にご出席くださりまして、誠にありがとうございます。

私は、東京都健康安全研究センター健康危機管理情報課長の長島と申します。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

開催に当たりまして、10月に新たに当センターに着任いたしました、健康情報解析担当部長の前田からご挨拶を申し上げます。

○前田健康情報解析担当部長 健康情報解析担当部長の前田と申します。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。例年、本委員会は年に2回開催してございますが、本日は、令和7年度のその2回目となるところでございます。

今回は、都内におけるスギ花粉の飛散開始時期、そして、花粉の飛散数の予測についてご検討いただければと存じます。本日の委員会でご検討いただきました、東京都内における今シーズンの花粉の飛散予測につきましては、本委員会後、プレス発表を予定しているところでございます。

限られた時間ではございますが、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。本日はどうぞよろしく願いいたします。

○長島健康危機管理情報課長 続きまして、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。お手元の名簿をご覧ください。

まず、専門委員の方々からご紹介させていただきます。浅香委員でございます。

○浅香委員 浅香です。よろしくお願いいたします。

○長島健康危機管理情報課長 倉本委員でございます。

○倉本委員 倉本です。本日は、よろしくお願いいたします。

○長島健康危機管理情報課長 村山委員でございます。

○村山委員 村山です。よろしくお願いいたします。

○長島健康危機管理情報課長 次に、委員の先生方をご紹介させていただきます。大久保委員でございます。

○大久保委員 大久保です。よろしくお願いいたします。

○長島健康危機管理情報課長 弘瀬委員でございます。

○弘瀬委員 弘瀬でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○長島健康危機管理情報課長 藤尾委員でございます。

○藤尾委員 藤尾でございます。よろしくお願いいたします。

○長島健康危機管理情報課長 星山委員でございます。

○星山委員 星山でございます。よろしくお願いいたします。

- 長島健康危機管理情報課長 堀委員でございます。
- 堀委員 堀でございます。今日はよろしくお願ひします。
- 長島健康危機管理情報課長 松岡委員でございます。
- 松岡委員 松岡でございます。よろしくお願ひいたします。
- 長島健康危機管理情報課長 ありがとうございます。

なお、笹井会長は、本日所用によりご欠席です。事前に笹井会長から、今回の会長代理として大久保委員をご指名いただいております。大久保委員、よろしくお願ひいたします。

- 大久保委員 よろしくお願ひいたします。
- 長島健康危機管理情報課長 事務局は、お手元の名簿にて代えさせていただきます。

次に、事務局から本日の資料の確認をいたします。

次第、名簿、委員会設置要綱、資料1から4、席次表、花粉症一口メモでございます。お手元でございますでしょうか。不足などございましたらお知らせください。大丈夫でしょうか。

それでは、議事の進行を大久保会長代理にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

- 大久保会長代理 はい。今日、笹井会長がご欠席ということで、代わりに議長を務めさせていただきます。

それでは議事に入る前に、議事録の公開について、皆様をお願いします。「東京都花粉症対策委員会設置要綱 第11」によりますと、会議及び会議に係る検討資料、会議録等は原則公開になります。皆様よろしいでしょうか。

(異議なし)

- 大久保会長代理 ありがとうございます。それでは、議事録は公開といたします。

それでは、早速、議事に入ります。

本日の議事は、2026年春スギ・ヒノキ花粉飛散予測についてとなっております。

最初に、ア、2025年花芽調査結果について、事務局より、資料1についてご報告をお願いいたします。

- 小林課長代理 事務局の小林でございます。

私のほうから資料1、2025年花芽調査結果についてご説明いたします。

資料1をご覧ください。

こちらの調査は2025年11月18日に行いまして、村山委員、倉本委員に調査を行っていただきました。

今回の調査地点は、昨年度と同じとなります。

また、推定雄花数は、雄花着花量判定基準を用いまして算出しております。

その詳細は、資料の裏面でございますので、そちらをご参照ください。

調査の結果を表にまとめてあるので、そちらもご覧ください。

2025年のスギ雄花の着花量は、観測地点8地点で1平方メートル当たり5,546個でした。地点ごとでは、前年に比べ5割以上、大きく上回る地点が2地点、前年を下回る地点が3地点など、混在している状態でしたが、全体の平均は前年をやや上回る結果でございました。

調査結果の資料の説明は以上となります。

○大久保会長代理 はい。ありがとうございました。

それでは、ただいまのご報告について、ご意見、ご質問を伺いたいと思います。皆様いかがでしょうか。ご発言がありましたらお願いいたします。

一つよろしいですか、私のほうから。昨年とほぼ同じ、もう寒い夏がなくて、ずっと暑いから、ある程度、一緒かなというふうに思うんですけど、ただ、この④肝要バス停付近と⑤旧長井バス停付近というのは、去年より随分増えているんですけど、これは何か局地的な意味があるのでしょうか。

○村山委員 ここの二つは、昔から年度ごとの増減がすごくはっきりしたところで、この二つだけ取り上げると、隔年で多い少ないを繰り返しています。そのほかのところは、少なくともここ5年ぐらい、ほとんど大きな変化がないんですね。いつも半分着いて、次の年には半分着くという。極端な冷夏があると、この倍ぐらいになってしまうんですよ。全部にもものすごく着いてしまうと。2003年を境に冷夏というものがなくなったものですから、その後の変動というのはすごく小さくなっているんですが、④と⑤については、なぜか、品種の違いだと思うんですけど、こういう極端な増減を繰り返しています。

○大久保会長代理 となると、今年は、そういう同じような品種がほかのところにもあれば、多くなる可能性というのは、残されるということなんですかね。

○村山委員 今年の5月、6月の日照時間が長くなれば、この④と⑤は、来年の雄花の数が必ず多くなるはずですよ。そのほかのところは、少し減るけれども、そんなに変動はないということです。

○大久保会長代理 実際の花粉数には、それほど影響は及ぼさないだろうと考えていいんですか。

○村山委員 東京だけではないので、神奈川とか、埼玉とか、遠くは静岡からも花粉は飛んできますので、ここだけを見て多い少ないと判断するのは、無理があると思います。

○大久保会長代理 分かりました。

ほかに何かご質問ございますでしょうか。どうぞ。

○村山委員 実は、私は、個人的に毎年高尾山周辺のを見ているんですけど、今年、雄花がものすごくたくさん着いているんですよ。多分、高尾だけ見たら、着いている数は1万近い状態になるので、倉本委員が、何年か前から高尾を含む谷合の状況を調べているので、八王子市にあるスギってかなり量が多いんですね。だから、できれば高尾周辺のところを加えるという。あるいは、倉本委員のほうからもらうとか、それをやったほう

が、奥多摩に限定されているので、そのほかのところが少ないんですよね。だから、檜原村とか、八王子市とか、そういったところが抜けているので、その辺を増やしてもらったほうがいいのではないかなという感じです。

○大久保会長代理 事務局のほうは、それでよろしいでしょうか。

○小林課長代理 はい、今後、検討させていただきたいと思います。

○大久保会長代理 はい、ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。

それでは、この議事は、次に進ませていただきます。

次の資料2、資料3にある各予測については、それぞれ関連性があることから、各先生のご説明の後に、合わせて質疑を行いたいと思っております。

それでは、議事1、スギ林の雄花着花状況による予測について、倉本先生、よろしくお願いたします。

○倉本委員 森林総合研究所の倉本でございます。改めましてよろしくお願いたします。

冒頭、先ほどの議論を引き継ぐ形で、少しだけ補足させていただきますと、村山先生のほうから、南多摩、八王子、高尾付近のデータも加えるべきだというご発言がございましたけども、既に村山先生とはその議論を重ねておまして、この東京都が行う、先ほどご発表いただいた、西多摩の比較的標高の低い、町に近いエリア、ここの調査については、私どもが研究として、林野庁と相談して動かしている課題で、既に取り組み準備を始めておりますので、成果の普及という形で、私どもお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願いたします。

では、本題のほうに入らせていただきます。

私のほうは、林野庁と環境省が全国の各地で行っている雄花調査、実際には、いろんな機関の方が、私どもも含めて行っておりますけれども、この冬に山で雄花がどれぐらい着いているかという、この調査の情報を基に予測を行います。私の後に、村山先生のほうから、花芽がつくられる夏場の、この間の夏の気象データから、花粉がどれぐらいつくられてるかというか、都市部にどれぐらい花粉が飛んでくるかという、そういう予測を行いますので、まず、私のほうから、この直近の雄花の着き方の調査結果、これを基に予測を発表いたします。

まず、資料2の1ページ目をご覧ください。

まず、スギ雄花調査ですけれども、先ほど言いましたように、国の事業として実施されておまして、関東は主に林野庁、1都9県は林野庁のほうの調査でカバーしております。その全県分のデータを、今、事業の統括は全国林業改良普及協会が行っていただきまして、こちらの結果をご提供いただきまして、それを基に例年の手法で予測を行っております。

調査方法は、昨年もご説明したところでありますので、少し飛ばしていききたいと思います。まず目で見て、4段階で評価をして、それを基に、どれぐらい雄花が着いているかというのを、点数、数値化するという流れです。これを、過去に行われたデータと、

その次の春に東京都で観測している、各地点の屋上での空中花粉調査結果、これとの関係性を基に、この間の冬の雄花調査結果から、これまでの関係性から構築した予測式を使って予測すると、そういう手順になっております。

今までもいろいろ吟味した結果、関東1都9県全てのデータに基づく予測ではなくて、一度、事前措置として検討はしているんですけども、東京都と神奈川県と、それから埼玉県、おおむねこの3県の山でのスギ雄花の着き方のデータ、これを使うと予測できるというような傾向が事前に見えていますので、今回は、その3県分のデータを実際には使用しました。

その上で、例えばですが、千代田で毎年観測されている花粉数と、その前の冬に、先ほど3県の山での着花度から推定した、推定の雄花の数、この数値とのこれまでの過去の関係性というのから数値式を求めまして、これに、この秋・冬に調査した結果を入れるという形で、今度、その千代田なり、12地点、それぞれを予測するという流れになります。

3ページ目ですけれども、首都圏各県の雄花の調査結果というのは、表1のような結果になっております。

多いところを太字で入れておりますけれども、多かったのが、神奈川県、それから、この表には、そのまた向こうの静岡県も含めておりますけれども、静岡県も多くて、それから千葉県が多いという結果になっていまして、これに比べると、東京都、埼玉県は少し少なめになっています。

去年との比較で言うと、神奈川県は少し減って、千葉県も去年より、平均で見ると少し減っているという感じですが、依然として高い水準で着いています。

東京都は去年、関東の中でぐっと少ない感じだったんですけども、今年は、それから少し増えたという感じです。それでも、神奈川とか、静岡より少し少なめという結果にはなっていますが、去年よりも増えています。ただ、増えているといっても、変わらない水準とも言えます。以上のような結果になっています。

5ページ目が先ほど申しました3県それぞれの雄花の値と、各保健所のこれまでの空中飛散量との関係性というのが、どれぐらい関連しているかというのを、相関係数という数値で、予測の前に評価しています。どの都県の組み合わせを使うかというのを選んでいる作業だと解釈してください。まず、3県それぞれというのが、上から3行ありまして、下の3行は、東京都と神奈川県ですとか、3県全部、あるいは、東京と埼玉県という、その組み合わせた値を使っています。まず、東京抜きというのは、現実的にはあり得ないと思いますので、この組合せ三つを用いています。結果的に、やはり東京都と神奈川県の組合せが、全体を通して関連性が高いだろうということですので、今回は、東京と神奈川の値を使って予測するというのに、最終的に絞り込みました。ただ、実際には、八王子ですとか、多摩、町田の場合、例えば、町田ですと、埼玉県が関連性が高そうだとかですね、そういった違いは個々にはあるんですけども、全体を調べてみると、

やはり東京、神奈川を使ったほうがいだろうということで、今回は、保健所ごとの場合分けというのはせずに、東京都、神奈川県雄花の着き方データを基に、全地点、それぞれを予測するというやり方を今回の策としました。

最終的な予測結果は、最後の6ページ、表3になります。これが雄花の調査からはじき出している、それぞれの地点での春シーズンの総飛散数の予測です。この※1と書いていますように、東京都と神奈川県の山での雄花の着き方から導いた数値です。参考までに、右の列には東京だけのデータ、東京の雄花の着き方だけですか、次のところは神奈川県だけで、さらに一番右は、3県全部の着き方を予測に使った場合という結果に、参考として示しています。

参考と示したのは、わけがありまして、東京都と神奈川県の雄花量というのが、結構、違いがありますので、もし東京だけだったらこれぐらい、神奈川県だったらこれぐらいと示したのは、先シーズンですね、予測していたよりも、実際は少なかったということがあって、第1回の委員会でもお話ししたんですが、例えば、開花したときの気象条件によって、神奈川県からの花粉の流送はそれほどでもなかったみたいな事象が生じると、相対的には東京が効いてしまいますので、その場合は、東京だけからの予測で示しているような値に、現実がなってしまう可能性があるということ、含みおきいただきかけたんですね。

もう一つは、空中花粉の測定は、スギとヒノキをまとめていると思うんですけども、山でのこの調査結果は、スギだけの値です。ヒノキがどうなっているかというのは、この林野庁、環境省が実施している調査からは、分からないんですね。ですので、ヒノキが、実はスギとはずれて、ドカンと着いたりするとですね、その予測からまた外れるということがあります。それについては、神奈川県が、ヒノキについても予測を少しさしているんで、それを参考に考えています。特段、並外れてヒノキが多そうではないということでしたので、ですが、やはりやや多いということなので、より神奈川県からの吹き込みが強いというような事象が生じると、今度は、予測より少し高めにいくかもしれない、ということもあり得ると思いましたので、参考までに、この※2のところ示したのが、東京だけの予測、神奈川だけの予測というのを並列でお示ししております。

以上です。

○大久保会長代理 倉本委員、ありがとうございました。

それでは、質疑は後になりますので、続いて、気象条件から見る2026年春の花粉予測について、村山委員から資料3のご説明をお願いいたします。

○村山委員 私のほうは、気象条件といっても、スギやヒノキの雄花ができるのが、スギの場合には6月から7月で、ヒノキの場合にはもっと短くて、ほぼ6月に決まってしまうというのが、過去の統計から分かっています。それともう一つ、それだけでは、毎年同じ日射量が出れば、毎年、雄花、花粉数が同じになるわけで、一般的な気象会社が出しているのは、気象条件でやっているんで、その増減の変化が読み込まれていないという

ところがあります。それを補填するために、同じ条件でも、毎年少しずつ変わるわけですが、それに対しては、一時的には前の年の花粉数を入れます。日照条件が同じでも、前の年の花粉数が多いと、マイナスになるような設定になっています。逆に言えば、少なくなればプラスになる、同じ気象条件で、そこで変化が出てきます。最終的には、その考え方が合っているかどうかというのを、今、説明されたスギ雄花の数と突き合わせて、最終的な微調整をやっています。図-1が令和7年、2025年6月の気象庁のホームページから引用した、6月の気象の傾向です。見ていただくのは、関東地方と山梨県、静岡県ぐらいでいいと思うんですけど、基本的に植物のエネルギー、栄養分というのは光合成でつくられるので、気温が高いからという研究者もいるんですけど、基本的には日照時間、本当は全天日射量というのが、一番光合成に関与しているんですけど、全部の気象官署で測っていないので、一番下の日照時間を見てください。

関東地方の南部はですね、平年より140%以上多い。それから関東地方、それから静岡、山梨も含めて、120%から140%ということで、平年よりも日照時間は長かったということです。

もう一つ、真ん中にあるのが雨の量で、これ、非常に少なかったんですね。例年の70%以下というところですよ。これ、去年は、関東地方が梅雨に入ったのが5月の末で、6月の初めには明けたんですね。梅雨自体が、平年よりも1週間以上短いということがあります。後で説明しますと、それと全く同じことが起きたのが2017年、翌年の18年に、ヒノキが爆発的に飛んだ場合です。

次の2ページには、7月の気象を掲示してありますけれど、まず、日照時間は、6月よりもっと多くなって、普通、梅雨が明けるのは、関東では7月の20日前後なんです。もうその前に梅雨が明けてしまっているというふうに。実際は、梅雨がなかったようなものなんですけど、全国的に、日照時間がものすごく多くなっています。特に日本海側では160%以上ということで、私も環境省の担当する24の県を回って雄花数を調べているんですけど、東北の南部からですね、北陸、中国地方はすごく多かったです。トータルで見ると、スギは、本当はもっとできていいはず、これだけの条件だったら、気象条件だけでやると、とんでもない数値になってしまいます。多分、青梅なんかで言うと2万5,000とか、3万個という数字になるんですけど、実際はそんなことないです。それから、もう一つ、上の降水量なんですけど、7月はもう全国的に雨が少ない。関東周辺に限って言うと、6月も7月も日照時間が多くて、雨が少ない。

スギは、それほど影響を受けていないみたいなんですけど、少なくとも、スギもヒノキも、昨年よりは多くなるだろうと、そういう判断ができます。私は、当初はですね、後でお示しする数値よりもっと大きなものを考えていました。それは多分、ヒノキがすごく着いている、南多摩地区のヒノキはかなり着いています。スギもすごく多いです。だから、実際にはもっと多くなるだろうというふうに思っていたんですけど、神奈川県が記者発表したヒノキの数値を見ると、もっと多いだろうと思ったら、去年の1.3倍程

度なんですね。思ったより少ないなという。私の見たところだけが多かったのか、神奈川県も十数年やっているの、一番信頼のおける数値なので、本当は1.5倍以上を考えていたんですけど、結果論でいうと2倍ぐらいいく可能性あるなと考えていたんですけど、神奈川のデータを見る限りでは、それほどヒノキが多くないなと。

ただ、3ページ目の表-2に示した、2017年の6月、7月の気温と雨量を書いていますけれど、この2017年の6月とはにかく雨が少ない。ヒノキの場合には、雨が降ると非常に少なくなるというのは分かっているの、こういう条件です。

もう1枚めくっていただいて、こちらは2025年の雨量なんですけど、こちら6月も7月も、どの地域、八王子だけは、一度、土砂降りがあったものですから、平年並みになっているんですけど、雨が少ない。しかも、2017年より、6月の気温も7月の気温も高いんですね。いまだにヒノキが爆発的に飛ぶ可能性がゼロになったわけではないと思っているので、今でも少し心配なところ。多摩南部の状況から見ると、この予想よりも、もう少し大きくなる可能性があるなと思っています。ただ、一応、神奈川県の1.3倍というのを考慮した数値で、表-5を作っています。令和7年の実測よりも、どの地域も増えています。過去10年平均と比べても、多い、少ないというばらつきはありますけれど、結構、多くなるなという感じです。30個以上の日数の予測も、新しく式を作り直して、最近100個以上の日が一番多くなっているの、計算すると、花粉数が多くなっても30個以上の日数は、例えば5,000個が7,000個になって7日増えるというのではないので、あんまり変化はないということですが、都内の平均で30日ぐらいということですね。この特徴はですね、青梅、八王子、それから多摩と、これから立川が増えてくると思いますが、それと23区、あと府中、小平、町田が意外に少ない。花粉数も少ないんですけど、そういうことになります。後で比べて見ていただくと分かるんですけど、令和8年の予測は、この数値で、倉本委員のとほとんど変わらないんですね。

- 村山委員 並べたら、もう多分、直線上に並ぶんじゃないかというぐらい、近いです。それから、これはですね、記者発表に使ってくれという意味ではないんですけど、都内のところを、去年調べた結果、飛散開始日から10個以上、30個以上、50個以上、100個以上になるまでの平均日数を見たものなんですね。都内の全域で言うと、私が東京都の委員になって、30個以上のを始めたときにはですね、10個以上になるまでに1週間、30個以上になるまでに、大ざっぱに言って2週間、15日かかっていたんです。10個以上になると、中等症になる患者さんが出てきます。30個以上だと、中等症になる人が多くて、中には重症の人も出てくる。それが10個以上になる日が3日から4日なんですね。23区が一番早いんです。これ多分、神奈川の影響だと思うんですけど、30個以上になるまでに、1週間かかっていないんですね。この辺は、花粉数が増えて、10個以上、30個以上になるまでの日数が、非常に短くなったところを、できれば、一口メモとか、そういうところに書き込んでほしいなというか、

プレス発表するときに、口頭でいいから言っていただきたい。

50個以上になるまで10日かかっていないんですよ。ここまで来ると、飛散開始から10日になるまでに、ほとんど重症になってしまいますよね、50個以上になると。こういうようなところを見てください。

それから、いつ頃から飛ぶかという、結論から言うと、例年より少し早いという予想を出しています。その根拠は、6ページの表-6にあるんですが、これを作ったときには、1月上旬までの実況値、昔は都心の気温を使っていたんですけど、当てにならないので、今ここ数年は、八王子のものを使っています。12月はですね、ほぼ平年並み、平年より少し高いということで、休眠覚醒は例年とそれほど変わらないだろうと。

1月の上旬は、これも平年並みで、中旬も平年並みで、下旬は今、平年より下がっています。ここ数日が下がっているんですけど、この予報が、書いたときにはですね、この平均気温で予想値を書いていて、4.2、3.6で、平年より高くなっているのに、実際には下旬の予報、1週間もしないうちにがらっと変わったんですよ。

だから、このところは少し変わっていますけれど、ただ、もう一つはですね、生物季節というのがあって、関東地方で梅の開花というのが、例年よりすごく早くなっているんです。福寿草とか、そういうものも早くて、自然の動きを見ていると、早くなる可能性があるなということです。

最終的には、この寒波が終わったときにどうなるかということなんですが、実は、私、14日に高尾へ行って、仲間と何人かで行ったんですが、花粉症だった人間は、全員発症しました。神奈川のスギ林の近くの厚木で観測しているところがあるんですが、1月以降、ずっと飛んでいます。だから、もういつ飛んでもおかしくないという状況なんですよね。

8ページ目に、今年の予想を出していますが、過去10年平均に比べると、2日から4日ぐらい早いだろうという予想になっています。一番心配していたのは、この寒波がなかったら、きっと1月下旬にまた飛んだらろうと思ったんですけど、この寒波なので、ちょっとお休みなんですけど、いずれにしても、例年より少し早いだろうという予想になります。

1月下旬までの、31日までの気象データを見て、直す必要があれば、毎年、直しているところなので、これは、まだ3週間以上先の話なので、気象がどう変わるかわからないので、一番変わる原因はですね、10センチとか、5センチの積雪があることなんです。雪が解けるまで、スギ林の気温が上がらなくなるんですよ。そうすると大幅に狂ってしまうので、その辺の見通しを含めて、2月の頭に再度、ホームページに掲載しているんですよ、そこで修正を加える予定です。

以上です。

○大久保会長代理 ありがとうございます。

ただいま、お二人の先生から、予測についてご意見を伺いましたが、その予測に関する

ること、あるいは、ほかにご意見ございましたら、お伺いしたいと思います。委員の先生方、いかがでしょうか。

村山先生、お聞きしていいですか。ピークになるのが早くなったのは、実感としてもあるんですけども、現状、昨年のデータだと思うんですけど、昔のデータで、もっと長かったというのを示すデータがあれば、比較となって、多分そういうふうになってきたということは言えると思うので、もし、昔のそういうデータがあればですね、どこかに出していただく…。

○村山委員 残っているかどうか分からないので、今、平成何年かまで載っていますよね、日データが。

○大久保会長代理 その辺の、ここの10年とか、20年…、10年ぐらいでいいんじゃないですかね。多分、四、五日でも早くなっていれば、多分、早くなっているという実感があると思うので。

○村山委員 それをね、昔のアレルギー学会とか、花粉学会で公表したので、どこかに残っていると思うので、ちょっと捜してみます。

○大久保会長代理 すみません、お願いします。

○村山委員 はい。

○大久保会長代理 ほかに、先生方いかがでしょうか。

お二人のデータが非常に近似しているということなんですけども、毎年暑いからこういう結果になるのかなというの、だんだん分かってきましたけど、村山先生がご心配されているのは、ヒノキですよ。

○村山委員 そうです。

○大久保会長代理 スギだったら多分、予測、かなり近似値が出るんですけど、ヒノキが、例えば、全花粉数の半分を占めるとなると、これは1.5倍とか、2倍になる可能性があります。

○村山委員 2018年には、都内で初めてじゃないかな、ヒノキのほうがスギより多くなったんですよ。ヒノキって、何か周期があるんだか、ないんだか、分からないんですよ。ただ、平均すると、6年から7年に1回ぐらい多くなっているなという印象を受けているので、18年からもう7年目になるので、そろそろ爆発的に増えても。気象条件からは、増えてもおかしくないというふうに見ているので、それが少し心配なんです。

○大久保会長代理 いかがでしょうか。確かに、毎年の棒グラフを見ていると、半分ヒノキ。通常は、5分の1程度なのが、半分になると、相当、予想が変わってきますよね。

○村山委員 そうですね。ヒノキだけで6,000個を超えたので。

○大久保会長代理 全部で1万、久々に1万を超えているんですよ。

○村山委員 そうです。

○大久保会長代理 ヒノキが飛べば、1万もあり得ると思うんですよ。

いかがでしょうか。大丈夫ですか。

ヒノキの、まだ不安さというのは残ると思うんですけれども、それでは、次の資料4ですね。議事1の資料4にあります、スギ・ヒノキ花粉飛散予測のまとめについて、事務局よりご説明をお願いいたします。

○小林課長代理 事務局の小林でございます。

それでは、資料4、スギ・ヒノキ花粉飛散予測のまとめをご覧ください。

まず、1番目になりますけれども、こちらは、各調査手法によるスギ・ヒノキ花粉の飛散数予測になります。こちらは、倉本委員、村山委員の両委員のほうからいただきました予測を、表の1、図1にまとめたものとなります。

2番目になります。こちらは予測の調整ということになります。

こちらは、両委員のほうで予測していただいたものを、東京都の予測としまして、表の2と図2にまとめたものとなります。上限値と下限値を予測し、プラスマイナス15%として示しております。

次の3番目になりますが、スギ・ヒノキ飛散花粉数予測のまとめとなります。

こちらは、各地点ごとの予測値の上限・下限値と、あと、過去との比較等をまとめたものを表3に示しております。また、都全体として、12地点の平均をグラフに表したものを図3に示しております。

今シーズンの予測としまして、都内の平均を5,600から7,500としております。これは、昨年のもものと比較いたしますと、昨年の1.2倍から1.6倍。過去10年平均と比較いたしますと1倍から1.3倍となります。

次に、4番目になります。飛散花粉数の経年変化についてでございます。

各年の飛散量の都内平均を棒グラフに、過去10年平均を折れ線で表示しております。近年、過去の10年平均が横ばいの傾向となってきました。これは、年によって飛散数の差が大きい傾向に、近年、見られる状況でございます。

次が5番目になります。飛散花粉数が多い日の予測についてでございます。

こちらは、村山委員の予測を基に、2026年の予測としまして、表5に示しております。飛散花粉数が多い日、これは、ダーラム法で1日の花粉量が30個以上のものを言いますけれども、この多い日の日数、こちらを、区部で32日程度、多摩部で33日程度ということで、昨春と比較いたしますと、区部では1日ほど少なく、多摩部では8日程度、多くなる見込みでございます。また、都内平均のほうで見ますと、33日程度となりまして、前年の28日より5日多く、過去10年平均の35日より7日多くなる見込みでございます。

次に、6番目になります。飛散開始日の予測についてでございます。

こちらのほう表6に示しております。飛散開始日は2月の10日から12日頃ということで予測をしております。こちら、過去10年平均と比較いたしますと、やや早くなる見込みでございます。

なお、2月の初め頃に、再度、飛散開始日の予測を行いまして、ホームページで公表する予定でございます。

資料4の説明は以上となります。

○大久保会長代理 ありがとうございます。

それでは、この資料4のまとめについて、ご意見、ご質問をお伺いしたいと思います。

ご意見がありましたら、よろしくお願いたします。よろしいですか。

○星山委員 すみません、ちょっとお聞きしたいんですけど。

○大久保会長代理 はい、どうぞ。

○星山委員 星山です。ただ、今週に入ってからかなり寒くてですね、夜、寝室にオイルヒーターを入れているんですけど、いつもの目盛りじゃ全然、暖かにならないんですけども、これが何かずっと今週続くというのは、相当寒いと思うんですが、それでも、開始日はこんなに早くなると考えられるわけですか。

○村山委員 この数日、寒いんですけど、それまでは、ずっと平年より高いんです。1月トータルすると、まだプラスなんですね。多分、今回の寒波は25日ぐらいに終わるのかな。その後、多分一気に気温は上がってくるので、大体、都内の場合には、平均すると最高気温の積算値で440度、400度から450度ぐらいの間なんですね。一番多いのが430から40なんですね。今の計算でいくと、2月の10日前に届いちゃうんですよ。だから、正直言って、これよりもっと早くなることもあるし、ただ、もう一つはですね、最近見つけたんですけど、1月の雨量が極端に少ないと、遅れるんですね。やっぱり一番最後に雄花が開くときってやっぱり水分が必要なので、このまま雨が降らないと、どっちになるか。だから、はっきり言って、この1月の末から2月の上旬というのは、気象庁の予報が一番当たらないときなんですよ。あと、梅雨どきに当たらないんですけど。だから、ここでどういうふうな変化になるか、雪の可能性もあるしということ。今のところ、平年並みに推移してるというふうに考えていただければいいと思います。

○星山委員 はい、ありがとうございます。

○大久保会長代理 ほかにございますでしょうか。

村山先生、そうすると、今、寒波といって雪が多い地域あるじゃないですか。ああいうところでは、雪がある程度、収まらない限り山から来ないということになりますよね。

○村山委員 とはいってもですね、このくらいの雪は、もう昔から当たり前だったんですよ。今まで降らなかったから、みんなおかしいなと思っているんですけど、実は、アメダスで積雪を調べ始めたのが1978年ぐらいからなんですね。その前はもっと降っていたんですよ。日本の積雪の記録は、滋賀県の伊吹山で14メートルというのが残っているんですね。伊吹山で10メートル、14メートルだったら、上越国境の山は、多分、15メートル以上になっていたろうと。そういう時代があったので、今は日本の記録というのは5メートルちょっとなんですね。青森県の酸ヶ湯温泉のところで、今も5

メートルぐらいあるんですけど、1メートル、2メートルは当たり前で、私が小学校の頃は、新潟というのはどこも雪の中で、雁木という雪よけをやってという時代だったので、昔より少ないんですよ。その頃でも、ちゃんと時期になれば飛んでいたんですよ。

○大久保会長代理 ということは、あまりそういうのは気にしなくても、ある程度の予測として、例えば、これから東京に大雪がもし降ったとすれば、これは遅れるんだと思いますけど、それである程度、落ちちゃえばですね、少なくなるのかもしれない。

○村山委員 ただ、春に咲く植物というのは、どこかで一回がくんと低温になると、その後の開花までが逆に早くなるんですよ。桜でもスギでも一緒に、その前も、スギの場合には、大ざっぱに12月が高温だと遅れます、開花が。平年並みだから変わらないだろうということです。桜もそうなんですよ。12月から1月が暖かいと、桜って遅れるんですよ、開花が。その辺が、一般の人にすごく説明しにくいんですけど、とにかく低温暴露というのが、春に咲く植物にとっては必要なものだ。沖縄なんかは、ほとんど開花しないそうです、低温にならないから。もともと雄花も非常に少ないですけど。

○大久保会長代理 ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。

それでは、資料のまとめについては、今のご意見を参考にして、事務局に考えていただきます。

ありがとうございます。委員の皆様にご討議いただいた事項は終了しましたので、議事の進行を事務局にお戻しいたします。よろしく願いいたします。

○長島健康危機管理情報課長 ありがとうございます。大久保先生、円滑に議事を進行いただきまして、ありがとうございました。

皆様、本日は大変お忙しい中、貴重なご意見などをいただきまして、ありがとうございました。ご討議いただきました、東京都のスギ・ヒノキ花粉飛散予測につきまして、本日プレス発表を行わせていただきます。

では、これをもちまして、東京都花粉症対策検討委員会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

(午後 2時27分 閉会)